

# 同援だより

2008年 盛 夏 号

<http://www.doen.jp/>



## 人材確保に全力を

常務理事 菅原 眞廣



先般五月、平成十九年度の事業報告及び決算報告が役員会で承認されました。おかげさまで、各施設がおおむね所期の事業目的を達成することができました。関係機関や職員の皆様により感謝申し上げます。

今回の役員会におきまして、理事、監事、評議員の一部交代があり、私も新たに常務理事として法人運営に尽力することになりました。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、世間では、来年度卒業者の就職活動が終盤を迎えています。景気回復が思わしくない中でも新規卒業者の就職率は以前に比べ大幅に改善されています。一方、社会福祉の業界では、福祉人材の確保がままならないばかりか、現在勤めている職員の離職が多くなっているという話があちらこちらで聞こえてまいります。我が法人においてもこうした事態に対応すべく、年度の早い時期から、さまざまな媒体を利用し求人活動を積極的に展開しております。昨年度は何とか一定の新規卒業者を確保することができましたが、今年度も厳しい状況に変わりはありません。

福祉人材の確保・育成は個々の社会福祉法人の将来に大きな影響を及ぼすのはもちろん、社会福祉事業全体の根幹に関わる問題だと考えます。制度の問題として、行政施策の改善に負うべき点は多々あると思いますが、東京都社会福祉協議会が取り組んでいる「福祉人材確保ネットワーク事業」のような新しい試みも展開されております。われわれ個々の法人においても、福祉を旨とする若い世代に夢と希望を与える職場作りに最大限の努力を払う必要があると思います。

他法人の皆様の実践例をお聞かせいただくとともに、我が法人の取り組みをご披露するなど、共に連携・協力しこの難局を乗り切ってまいりたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



### 理事就任にあたって

理 事 志 茂 威

五月三十日付けをもちまして同胞  
援護会理事に就任させていただきました  
ことになりました志茂でございます。ど  
うぞ、よろしくお願い申し上げます。

私の住んでいる昭島市では、同胞援  
護会が各種の社会福祉事業を展開し  
ておりまして、地域福祉、保健・医療の  
増進に大きな役割を果たしています。  
地域福祉充実が叫ばれている状況で、  
同胞援護会は行政と一体となって市民  
福祉の向上に努めている法人でもあ  
ります。

私も昭和五十九年から概ね三年、  
健康・保健・医療、高齢者福祉の行政  
担当職にあつたときは、多くの協力を  
得ましたことを今思い起こし、懐かし  
く思っています。

私は、昭島市在職中は、総務、議会、  
企画と管理部門勤務が長く、また、平  
成九年の助役就任後八年間は昭島市  
も財政状況が著しく厳しく、自主的  
な都市運営が難しい状況から、行財政  
の健全化、効率化が主要課題でもあ  
りました。

したがって、数年の福祉実務経験で  
は難しい役職でありますことから、こ

遠慮すべきと考えましたが、北川市長  
のお話もあり、微力ながら地域福祉の  
増進と法人の発展にお役にたてれば  
とお受けしたところであります。

また、昨年から、児童養護施設双葉  
園の第三者委員に委嘱されていたこと  
も、今回の理事就任と何か縁があつた  
と思つています。

今後、理事長、先輩理事をはじめ職  
員の皆様のご指導のもと職責の遂行  
に努めていく所存であります。

今、社会福祉関係におきましては、  
介護保険制度の改正、障害者自立支  
援法の見直しに合わせて地方分権に  
伴う各種社会福祉関連事業の推進  
母体、権限、財源のあり方など今後の  
社会福祉の推進におきまして重要な  
事が議論されています。この議論動向  
は、今後の社会福祉事業の運営に大き  
な影響を与えるものと考えます。

一方、各種福祉事業の内容、施策は  
多様化し、高度化の状況にあります。  
そして、最近では、少子高齢化の進展、  
生活態様の変化などにより核家族化  
が進み、家庭、地域における援助機能  
の低下、さらには成人病や現代の社会

環境を反映したストレスによる心の病  
の増加などに伴い、社会福祉、健康・保  
健・医療の充実への関心は高まり、きめ  
細かな福祉サービスの提供が求められ  
ている現況にあります。

具体的にみましても、保育支援も  
保育需要が変化し、多様化してきて  
おり、保育時間の延長や病後児保育  
などが求められているようです。した  
がつて、乳幼児人口や保育需要の動向  
を十分把握して対応していくことが  
重要だと考えます。

高齢者支援は、援護や介護を要す  
る高齢者は、一層増加する事が予想さ  
れます。したがって、高齢者の施設サ  
ービスを始め在宅援護、介護支援機能、  
医療機能を持つている同胞援護会の役  
割も一層高まります。そのために、同胞  
援護会の持つている諸機能がさらに連  
携を深め、高齢者の生活を支える総  
合的なサービス提供機能としての確  
立を図っていくことが重要であると思  
います。

障害者支援は、生活安定や保健・医  
療や援護施策の充実など、きめ細かな  
施策の展開が求められています。自  
立支援法の運用動向も視野におきな  
がらノーマライゼーションの理念に沿  
って、施設運営などの支援事業の推進を  
図る事が大切であると考えます。

児童・婦人支援は、児童・婦人が抱え  
る悩み、課題を受け止め生活意欲の  
向上や社会的自立を積極的に支援で

きるよう相談・指導体制をより確立  
する事が大切であると思ひます。

理事就任にあたりまして、思いの一  
端を述べてきましたが、いづれにいた  
しましても、福祉水準の向上を支え  
てきた条件は、今、急速に失われつつあ  
ります。一方、各種福祉需要の増大と  
否応なく結びつく少子高齢化など社  
会諸情勢の変化は着実に続いています  
。よって、現在進められている福祉の  
あり方の論議をさらに深めていく事  
は大切であります。これからの福祉  
の基本的方向については、当法人の基  
本方針である「支援を受ける方の立  
場に立つて、質の高いサービスを提供す  
る。」ことに尽きると思ひます。

今、社会福祉ルネッサンスの時代を  
向かえ、福祉環境も大きく変わりつつ  
あるとき、微力ながら円滑な法人運  
営にお役に立てれば幸いに存じます。



カット 野島 珠里



## 退任のご挨拶 「十年二ヶ月を振り返って」

前常務理事 五十嵐力平

今年の梅雨は例年に比べ、日照時間が少なく、降雨量の多い年のようです。この稿が出る頃は盛夏を迎えていることと思います。

先般の役員会におきまして、五月三十日付で退任を認めていただきました。平成十年四月二日に企画部長として就職、平成十二年五月三十日から常務理事に就任いたしました。都合十年二ヶ月にわたりお世話になりました。

この間、古川前理事長、牧野理事長ほか、多くの役職員の皆様のご薫陶をいただきました。又あわせて多くの関係する皆様方のお力添えをいただきました。紙面をお借りいたしまして謹んで感謝とお礼を申し上げます。

振り返って十年余、同援は終生記憶に残る職場になりました。これまで、福祉施設の方とのつながりは殆どありませんでしたが、福祉の第一線で仕事をされる方々との出会いは、新鮮

な驚きでした。この印象は今も変わっておりません。

福祉施設とのかかわりはこれまで多少ありましたが、法人の運営や施設現場については初めての経験です。

同援は、多種の施設を多数運営しております。その運営の司令塔とも言うべき法人の事務局が新宿の原町に所在しております。

企画部では、昭島病院とのかかわりが主な仕事でした。病院についてはなおさら初めての経験です。最初のうちは、医療の専門用語と、病院経営の仕組みとの格闘でした。そんな日々を繰り返すうちに少しずつ同援の組織の概要がわかりかけてまいりました。

同援の建物は全体として歴史を経たものが多く、喫緊に建替えを必要とするものや、それに近いものが多々あります。同援の組織自体もこれからの福祉の戦略を考える中で、いろいろ改革を進める要素があるように感

じておりました。

常務理事に就任いたしました平成十二年は、「福祉革命といわれるほど、福祉の世界においては大きな改革の年となりました。このことは、平成九年の介護保険法の制定により予想されておりましたが、やはり福祉の現場にとりましては大きな衝撃でした。

社会福祉事業法から社会福祉法へ、又介護保険の実施により、措置から契約へとかわります。このことは、誰しもがこれからの福祉の方向を示唆する改革の手始めと感じておりました。社会福祉法人は自ら変わらなければいけないと、改革の必要性は認識しても、具体的な青写真となると、問題は山積しておりました。同援という法人・施設改革をどう進めていくべきか、皆と知恵を出し合う検討が始まりました。

この間昭島病院はようやく建替えの方向へと進み始めました。いろいろな紆余曲折はありましたが、厳しい医療環境にあつて役職員一致で建替えが決められたことは、きわめて意義のあることと感じたところです。

同援は古い歴史と、多様な施設を抱える法人です。一時は法人分割の意見もありましたが、法人経営・施

設経営は、法人の規模の大きさを生かすことがより有効と考えておりました。

具体的な改革の内容については、この稿では控えますが、改革の議論を進める中で、一番の力と感じたのは、同援の組織力とともに同援を思い、利用者を思う施設長ほか職員の皆さんの心意気と感じました。このパワーは、同援マンという自負に伴う同援独特の雰囲気かもしれません。

法人の経営にあたりいつも心がけたことは、法人の情報はできる限りオープンにすること、組織を透明にして風通しをよくすること、誰もがきちんとものの言える職場にすること、職員の話しはよく聴くこと、いろいろありますが、要は、職員に情報をきちんと伝え、職員が自ら考える仕組みを作ることが、法人の民主的な経営に必要だと考えました。十年二ヶ月は、こうした皆さんに支えられた時間だと思っております。

常務としての職責は離れますが、監事として任命をいただきました。もう少しお役に立つことができれば幸いです。永い間ありがとうございました。

就任のご挨拶



企画部長

山川浩一

本年六月一日付で企画部長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

私は、福祉系大学を出て同援に採用していただきました。

障がい者施設で働きたいという希望が通り、知的障害者更生施設さやま園で勤務することができました。二十二年間さやま園で勤務し、その後小茂根福祉園で施設長として三年間勤務してきました。

この度の就任後、障がい者支援系以外の施設見学をして参りました。やはり財務状況や利用率などの数字からは見えない実践や考え方をもっている施設も多く、利用者支援、家族支援に留まらず地域に根ざした施設を目指すものを改めて感じました。

現在、福祉や医療の現場で人材確保

が大きな課題となっています。これは社会保障費の抑制が背景にあるわけです。サブプライムローンの問題やガソリン・食材その他の高騰など景気悪化の要因は多いわけです。

こういうことを除いても、福祉法人を取り巻く環境は厳しいものになってきているのはご承知の通りです。

また厳しいだけでなく不透明でもあります。たとえば障害者自立支援法についていえば、十八年度の新法施行後さまざまな問題が浮き彫りになり、度重なる制度改正をしながら、三年後の見直しについても具体的にどうなるのかいまだ見えません。計画が立てにくい状況が続いています。

こういった状況下にあつても福祉法人としての公益性を維持向上し、利用者満足、職員満足を向上しつつ、事業活動収支をある水準には保つていかなければなりません。需要はますます増大する業種でもあります。

利用者支援の質を第一にこれらの視点をもつて仕事にあたる所存ですが、この度与えられた職務を遂行するには、皆様のご指導ご助言が欠かせません。

今後ともよろしくお願いいたします。



昭島病院  
事務長

長沼君夫

「貸借対照表の見方を教えて、損益計算書をどう理解すればいいの…」と毎日担当にご迷惑、ご指導を仰ぎながら、苦闘しております。

四月二日付で昭島病院の事務長に就任しました長沼です。

東京都に三十七年間勤務し、その間、福祉、環境、総務といろんな事業に携わってきましたが、最後は板橋区にある東京都老人医療センターでした。老人医療センターについて、ご存じない方もいらつしやるかもしれませんが、高齢者を専門に診るれっきとした急性期病院です。建物も老朽化しており、病床数も昭島病院より三倍以上を有し、職員数も多く、何よりも官庁会計で運営されていることから、柔軟な対応がしにくい面がありました。

一方、昭島病院は建物も新しく、周辺環境とマッチした素晴らしい職場環境です。また、企業会計による運営のため、財務諸表も日常的に明確にされるなど、緊張感があることと二方では弾力的な対応が可能で、以前の職場と

は大きく異なるなど感じています。就任にあつての理事長からのお言葉は法人施設との連携をうまくやって欲しいということでした。

老人医療センター時代も同一敷地内に特別養護老人ホームなど福祉施設があり、連携委員会の開催など施設間の連携はそれなりに確保されていたと考えていますが、その点でも経験を生かせればと思っております。

医療をめぐる環境は、コロナ変化する政策変更、医師・看護師の確保の困難、診療報酬の見直し等厳しい状況であり、病院自体が変革していく必要があると痛感しております。そのため、スタッフ全員が「営業マン」といった新たな発想で取り組むことが求められているのではないかと思います。また、社会保障費抑制の中で、経営の安定をどう図っていくか、患者様に適切な医療サービスの提供と信頼の確保、その上につた地域での中核病院として充実、これらをどう実現するか等課題は多い。

これら課題解決に向け、微力ですが、全力で当たりたいと思っております。よろしくご指導、ご鞭撻をお願いします。

新任施設長・副園長挨拶



小茂根福祉園  
園長 宮本浩史

「青天の霹靂」、そう、たしかに雷が鳴ったようでした。

六月一日付で、板橋区立小茂根福祉園の園長となりました、宮本でございます。これまで知的障がい者福祉を中心に、二十五年間働いてまいりましたが、そのフィールドは多摩地区でした。北の雪国出身の田舎者にとつて、二十三区内は都会。今、その都会で仕事をできる喜びに浸っております。

これまで若輩者の自分を支えてくださった、諸先輩の一番の教えは、「利用者本位のサービス」この一言に尽きると思います。常に利用者側に立って、利用者の視点から物を見る、風を感じる、そんな人でありたいと思っております。昔、次のような体験をしました。

利用者と昼食を食べたあと、あま

りおいしくなかったと感想を言うとう、彼はおいしかったと言います。何度か会話を重ねるうちに、小声で「宮本、おいしくないって言っているのか？」と話してくれました。大きな衝撃でした。文字通り雷に打たれた気分でした。

利用者本位のサービスとは何だ。本当に利用者の目線で物を見ているのか？このことを強く厳しく、自分への戒めとして刻んでおります。

障がい福祉は、自立支援法の挟間に大きく揺れています。利用者もとより、それを支える職員の生活さえ揺らぎ始め、生涯の生業とすることをためらう人もいます。

結果の出ない地道な仕事でゴールもなく、途中の道しるべさえ見えないかもしれない。しかし、それでも挑戦する価値がある、そんな風に思える職場づくりを目指したいと思えます。自分の仕事に価値を見出し、それを糧にして、自信を持って利用者とともに生きる。同援の長い歴史と青空と利用者の笑顔の背に、一生懸命頑張ります。

よろしくお願いいたします。



原町ホーム  
副園長 田代秀之

原町ホームでの新たな出会いから三ヶ月余りが経ち、副園長としての役割を果たしているのかいささか疑問ではありますが、その重責をしっかりと感じながら過ごす毎日です。

私は、措置最後の年度に期間限定職員として採用され、介護保険制度の下に高齢者施策の実践を行ってきました。がむしゃらに働く事に生き甲斐を感じ、前だけを見つめて歩んできた日々を振り返ると、そこには沢山の利用者の笑顔と、素晴らしい仲間との出会いがあります。そして、それこそが私の原動力でもあるのです。

昨今の社会情勢の変遷は、福祉に多くの課題を投げ掛けています。そんな中、特別養護老人ホームは社会福祉法人としての役割を果たすことも然る事ながら、生き残りを掛けた競争を余儀なくされていると言っても過言ではありません。

そうした現実に対処しながらも「利用者に楽しみを」「利用者の家族に安心を」提供し、相互にQOLを高めていける施設運営を目指してい

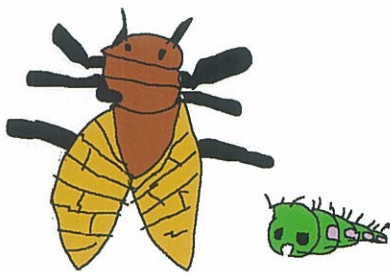
なければなりません。

それと同時に、次世代を担う人材の育成も重要な課題となっております。同援護会を支えているのは、誰でもない、我々一人ひとりの意識と行動に他ならないのです。

現在、原町ホームでは「タクティール」や「ほほ笑み事業（逆デイサービス）」をはじめとした、パーソセンタードケアを職員が一丸となって提供しています。

厳しい情勢の今だからこそ、他法人・他施設と一線を画したサービスを提供することで同援のブランド化を高めると共に、施設のよりいっその飛躍を目指して行きたいと思えます。

今後とも皆様方のご指導・ご支援をよろしくお願い致します。



カッタ 五十嵐 清人



◆ ニューフジホーム ◆

ニューフジホームは開設から二十八年目をむかえますが、これまでも多くの地域の方々に支えられてきました。特に「ボランティア」という形では年間延べ一千人以上の方に活動いただいております。

毎日行っている「レクリエーション」もボランティアの方々の多彩な活動により、華やかなものになっています。毎週金曜日に行う「みちくさ倶楽部」では、利用者が近隣の団地にあるサロンに向き、和やかなひと時を過ごしていただいています。職員だけではどうしても身体介護が中心になってしまいますが、地域の方々がホームに来ていただけることで、利用者の生活に「潤い」をもたらしただけなのです。

また、ほぼ毎月ある行事(イベント)のなかでも、夏季に行われる「ビアガーデン」は、職員自ら屋台を出す本格的なものです。実習生やボランティアの方々には付き添い、浴衣の着付けなどをお願いしています。利用者も終日笑顔で、緑日の思い出を語られたり、普段食欲のない方が驚く程たくさん量を召し上がる姿も見受けられます。



ここまで地域の方々に支えていただけるようになったのは、ボランティアを続けていただいている方々の尽力や地道に受入を行ってきた歴代職員の努力によるものとは思いますが、何よりも利用者の「楽しかった」という笑顔を見ることが原動力となっているのではないのでしょうか。

ニューフジホームでは地域より「潤い」をいただくだけではなく、施設としても地域に還元したいと考え、地域住民を対象にした「交流会」を開催しています。今後は介護教室なども行ない、地域の方々が気軽に立ち寄れる施設を目指したいと思えます。

特別養護老人ホームは、施設の特質上どうしても施設内で生活が完結してしまうことが多いのですが、ニューフジホームは今後も外出や地域の方々との交流を通じて、利用者楽しく生きがいのある生活を過ごしていただけるように努めてまいります。(魚津記)

◆ 同援みどり保育園 ◆

同援みどり保育園の周りには、二つの小学校と団地、春には見事に咲くから並木があります。

地域に根ざした保育園として四月を除いた、毎週月曜日に園庭開放と毎月一回「遊ぼう会」を実施し、地域の保護者や乳児(〇歳児から二歳児を中心に)が保育園に集い、園児たちと一緒に歌を歌ったり、体操や遊戯、粘土や遊具などで遊びながら交流をしています。その中で育児に対する相談(オムツのはずし方や離乳食の進め方・お箸の使い始め、言い聞かせ、など)また一緒に参加している親御さん同士の交流や情報交換の場にもなり保育園を介して人の輪が広がっています。

ポスターやベビリーフ(情報誌)でのお誘いだけでなく、毎回、「遊ぼう会」や園庭開放に参加いただいた方に呼びかけ、自宅で子育てをしているご家庭に育児支援をしていくための地域向けサービ

昭島荘 道旬会

同援俳壇

携帯の  
絵文字で届く夏便り  
博吉

湯上がり  
口に含むやミニトマト  
香雄

夕日背に  
父子で帰る白シャツよ  
美知子

紫陽花に  
雨の味つけ食べたいな  
通子

園庭の  
垣根に紅くつつじ咲く  
フキ子

幼子や  
トマトを食べて笑顔かな  
きぬな



スとして、パートナー保育登録をしていただきました。育児講座や園の行事等の情報や育児相談を家庭にいてもインターネットやFAXから手軽に得ることが出来るシステムにしたことにより、口コミによる広がりが見られ、平成十九年度において年間のパートナー登録者が百八名となり、今年度においても徐々に広がりを見せています。

今後とも地域の中に溶け込み、地域の人々と交流を深め子ども達がのびのびと安心して過ごせる環境づくりを保護者・地域の方と一緒に進めていきたいと思っています。

(鈴木記)

◆ さやま園 ◆

さやま園では、毎年十月に利用者の方々の作業作品展示販売、地域の方々との交流、施設開放そして資金造成を目的とした『さやま園祭』を行っています。

今年の園祭は、十月二十六日に開催する予定です。年間を通して全利用者職員が関わり、準備を進め、本園の最大行事に取り組んでいることに意義があると思っています。

毎年、バザー用品は、継続して提供して下さる方、地域の方々また保護者の方々など切れ目なく届いており、その善意の深さに大変感謝いたしております。

園内の動きの中で、利用者の方々は、園祭で展示・販売する陶器、手芸品等の制作に向けて日々活動されております。最近の動きとしては、園芸班が中心となつて本園保護者会の山荘「どんぐりの家」(山梨県明野町)近くの畑にさつま芋の苗を植えてきました。このさつま芋は、九月に収穫し、利用者が中心となつて洗い、数日間の天日干しで甘味を増すよう工夫した後、園祭では毎年すぐに売り切れる人気商品のおいしい焼き芋へと生まれ変わります。

また、六月には梅の実の収穫にも行ってきました。こちらも選別、洗浄の後、梅酒や梅干しへと姿を変え、園祭で販売いたします。今年も昔ながらの美味しい梅干しのご提供ができればと考えて

おります。

さて、園祭に向けての準備も着々と進めている途中ではありますが、地域交流の「環」として六月十五日に近接のサンホーム、東村山生活実習所も参加してのミニバザーを開催しました。地域の方々の来園も多く、四季折々にふれた様々な行事が着実に地域に浸透してきていると感じております。

これからも地域の皆様方との交流は様々な形で行っていきませんが、十月のさやま園祭本番に向けた準備努力はさらに続きます。

(園祭担当記)



万世敬老園 あげさみ旬会

葉桜に

始終を見らる 部屋の中

月岡 久三

入字見

うれしさ背負うラレドセル

月岡 久三

菖蒲湯で

無病で今年を過せたら

平岩 武二

よき日なり

散策の路風薫る

宜 準子

春寒に

耐えてよく咲く野花達

武藤 香雄

ライトホーム 俳句・短歌

朝顔や

空より青き花咲けり

佳 杼

子育ての

川石たたく黄鶴鶴

佳 杼

## 平成19年度 事業報告について

平成20年5月28日開催された評議委員会・理事会において「平成19年度事業報告」並びに「平成19年度決算書」は、本誌8頁から14頁のとおり議決されましたのでお知らせいたします。

なお、本会の事業報告並びに決算書は頁数が相当数に及びますので、その要旨のみを紙上掲載いたします。

法人事務局に「平成19年度事業報告・決算書」がございますので、詳細をお知りになりたい方は、事前にお電話で来訪日をお知らせいただければ閲覧いただけます。

## 平成19年度 事業報告

平成19年度の日本経済は、前半に明るい兆しが見えましたが、後半には「サブプライムローン問題」や、世界的な原油・穀物などの原材料費の高騰が重なり、先行きの見通しが悪くなりました。

社会福祉の分野では、補助金の削減などにより、依然として経営環境の厳しさが続く中で、コムスン等による介護保険をめぐる不正事件が大きな社会問題となりました。また、求人難や離職の増加など、福祉に携わる人材の確保がますます困難になった一年でもありました。

当法人としては、利用者サービスの一層の向上を図るため、各施設の運営に万全を期すとともに、法人の経営基盤を強化するための本部機能の強化及び将来を見通した人材の確保・育成に取り組んだ一年となりました。

まず施設運営についてですが、適切な利用者サービスを提供するとともに、地域ニーズに対応した事業展開に努めました。その結果、第三者評価を受けた施設にあっては、おおむね高評価を得ることができました。

次に本部機能の強化ですが、グループ別経理処理を行い、経理事務の専門化と効率化を図るとともに、契約事務や物品購入の集中化を図ることにより、「法人単位の経営」に一步近づけました。

更に人材の確保についてですが、年度の早い時期から、さまざまな媒体を利用し求人活動を積極的に行うことにより、一定の新規学卒者を確保することができました。また、若手職員の確保などを目的として給与面での改善を図るとともに、非正規職員の正規化を推進しました。

最後に、昭島病院の運営についてですが、依然として医師・看護師の確保に苦勞しておりますが、入院・外来とも収益の維持改善に取り組んだ結果、昨年に続き損益はプラスとなりました。また、今年度新たに設置した訪問看護ステーションは、開設当初は当月赤字が続きましたが、後半からは訪問実績も伸び当月の収支が改善されました。

平成19年度事業報告にあたり、施設の利用者および家族・保護者の皆様を始め、関係者、地域の皆様から温かいご支援、ご協力を賜りましたことを心から感謝いたします。







決算報告書 | 公益事業 |

貸借対照表 平成20年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	25,629	流動負債	5,284
固定資産	13,514	固定負債	0
		<b>負債合計</b>	<b>5,284</b>
		純資産の部	
		基本金	0
		国庫補助金等特別積立金	0
		その他の積立金	13,269
		次期繰越活動収支差額	20,590
		<b>純資産合計</b>	<b>33,859</b>
<b>資産合計</b>	<b>39,143</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>39,143</b>

事業活動収支計算書 (自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日(単位:千円)

事業活動収支の部	
事業活動収入(1)	95,819
事業活動支出(2)	93,319
<b>事業活動収支差額(3)=(1)-(2)</b>	<b>2,500</b>
事業活動外収支の部	
事業活動外収入(4)	3,060
事業活動外支出(5)	3,628
<b>事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)</b>	<b>△ 568</b>
<b>経常収支差額(7)=(3)+(6)</b>	<b>1,932</b>
特別収支の部	
特別収入(8)	0
特別支出(9)	0
<b>特別収支差額(10)=(8)-(9)</b>	<b>0</b>
<b>当期活動収支差額(11)=(7)+(10)</b>	<b>1,932</b>
繰越活動収支差額	
前期繰越活動収支差額(12)	15,656
<b>当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)</b>	<b>17,588</b>
基本金取崩額(14)	0
基本金組入額(15)	0
その他の積立金取崩額(16)	3,000
その他の積立金積立額(17)	0
次期繰越活動収支差額 (18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	20,588
<b>収益総額</b>	<b>98,879</b>
<b>費用総額</b>	<b>96,947</b>
<b>差引差額</b>	<b>1,932</b>

資金収支計算書 (自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日 (単位:千円)

経常活動による収支	
経常収入(1)	91,561
経常支出(2)	91,706
<b>経常活動収支差額(3)=(1)-(2)</b>	<b>△ 145</b>
施設整備等による収支	
施設整備等収入(4)	0
施設整備等支出(5)	0
<b>施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)</b>	<b>0</b>
財務活動による収支	
財務収入(7)	3,000
財務支出(8)	0
<b>財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)</b>	<b>3,000</b>
予備費(10)	
<b>当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)</b>	<b>2,855</b>
前期末支払資金残高(12)	17,490
<b>当期末支払資金残高(13)=(11)+(12)</b>	<b>20,345</b>
収入総額	94,561
支出総額	91,706
<b>差引差額</b>	<b>2,855</b>

決算報告書 | 授産事業 |

貸借対照表 平成20年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	25,285	流動負債	23,573
固定資産	17,218	固定負債	0
		<b>負債合計</b>	<b>23,573</b>
		純資産の部	
		基本金	0
		国庫補助金等特別積立金	3,877
		その他の積立金	600
		次期繰越活動収支差額	14,453
		<b>純資産合計</b>	<b>18,930</b>
<b>資産合計</b>	<b>42,503</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>42,503</b>

事業活動収支計算書 (自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日(単位:千円)

授産事業活動収支の部	
授産事業活動収入(1)	22,694
授産事業活動支出(2)	23,705
<b>授産事業活動収支差額(3)=(1)-(2)</b>	<b>△ 1,011</b>
福祉事業活動収支の部	
福祉事業活動収入(4)	197,690
福祉事業活動支出(5)	191,061
<b>福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)</b>	<b>6,629</b>
事業活動外収支の部	
事業活動外収入(7)	0
事業活動外支出(8)	1,665
<b>事業活動外収支差額(9)=(7)-(8)</b>	<b>△ 1,665</b>
<b>経常収支差額(10)=(3)+(6)+(9)</b>	<b>3,953</b>
特別収支の部	
特別収入(11)	0
特別支出(12)	0
<b>特別収支差額(13)=(11)-(12)</b>	<b>0</b>
<b>当期活動収支差額(14)=(10)+(13)</b>	<b>3,953</b>
繰越活動収支差額	
前期繰越活動収支差額(15)	11,100
<b>当期末繰越活動収支差額(16)=(14)+(15)</b>	<b>15,053</b>
基本金取崩額(17)	0
基本金組入額(18)	0
その他の積立金取崩額(19)	0
その他の積立金積立額(20)	600
次期繰越活動収支差額 (21)=(16)+(17)-(18)+(19)-(20)	14,453
<b>収益総額</b>	<b>220,384</b>
<b>費用総額</b>	<b>216,431</b>
<b>差引差額</b>	<b>3,953</b>

資金収支計算書 (自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日 (単位:千円)

授産事業活動による収支	
授産事業収入(1)	21,708
授産事業支出(2)	21,108
<b>授産事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)</b>	<b>600</b>
福祉事業活動による収支	
福祉事業収入(4)	187,490
福祉事業支出(5)	180,125
<b>福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)</b>	<b>7,365</b>
施設整備等による収支	
施設整備等収入(7)	0
施設整備等支出(8)	1,652
<b>施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)</b>	<b>△ 1,652</b>
財務活動による収支	
財務収入(10)	0
財務支出(11)	600
<b>財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)</b>	<b>△ 600</b>
予備費(13)	
<b>当期資金収支差額合計 (14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)</b>	<b>5,713</b>
前期末支払資金残高(15)	0
<b>当期末支払資金残高(16)=(14)+(15)</b>	<b>5,713</b>
収入総額	209,198
支出総額	203,485
<b>差引差額</b>	<b>5,713</b>

決算報告書 | 病院会計 |

貸借対照表 平成20年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	786,259	流動負債	487,178
固定資産	3,964,543	固定負債	2,455,930
繰延資産	44,800	負債合計	2,943,108
		純資産の部	
		資本金	908,835
		近代化補助金等積立金	668,681
		当期末処分損益	274,976
		資本合計	1,852,492
資産合計	4,795,602	負債・資本合計	4,795,600

損益計算書 (自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日 (単位:千円)

医業収益の部	
医業収益(1)	2,840,662
医業費用(2)	2,813,761
医業利益(3)=(1)-(2)	26,901
医業外損益の部	
医業外収益(4)	332,990
医業外費用(5)	294,307
医業外損益(6)=(4)-(5)	38,683
経常損益(7)=(3)+(6)	65,584
期間外損益の部	
期間外収益(8)	18,531
期間外費用(9)	11,530
期間外損益(10)=(8)-(9)	7,001
当期損益(11)=(7)+(10)	72,585
法人税等	0
税引き後当期利益	72,585
前期繰越損益(12)	202,391
当期末処分損益(13)=(11)+(12)	274,976
収益総額	3,192,183
費用総額	3,119,598
差引損益	72,585

決算報告書 | 収益事業 |

貸借対照表 平成20年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	111,093	流動負債	58,764
固定資産	196,779	固定負債	0
		負債合計	58,764
		資本の部	
		資本金	176,240
		積立金	57,140
		剰余金	15,728
		資本合計	249,108
資産合計	307,872	負債・資本合計	307,872

損益計算書 (自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日 (単位:千円)

営業損益の部	
売上高(1)	215,233
売上原価(2)	172,768
販売費および一般管理費(3)	29,076
営業利益(4)=(1)-(2)-(3)	13,389
営業外損益の部	
営業外収益(5)	18,487
営業外費用(6)	30,550
営業外利益(7)=(5)-(6)	△ 12,063
経常利益(8)=(4)+(7)	1,326
特別損益の部	
特別利益(9)	170
特別損失(10)	351
期間外利益(11)=(9)-(10)	△ 181
当期利益(12)	1,145
法人税等	3,098
税引き後当期利益(13)	△ 1,953
前期繰越利益(14)	17,683
当期末処分利益(15)=(13)+(14)	15,730
収益総額	233,890
費用総額	235,843
差引損額	△ 1,953

決算報告書 | 法人全体 |

貸借対照表 平成20年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	3,576,155	流動負債	1,113,690
固定資産	15,147,719	固定負債	3,834,656
繰延資産	44,800	負債合計	4,948,346
		純資産の部	
		基本金	82,664
		資本金	915,071
		国庫補助金等特別積立金	4,094,118
		その他の積立金	3,990,108
		次期繰越活動収支差額	4,738,367
		純資産合計	13,820,328
資産合計	18,768,674	負債・純資産合計	18,768,674

# 財 産 目 録

平成20年3月31日現在

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会

(単位:千円)

I 資 産 の 部		¥ 18,768,673
(1) 流 動 資 産	¥ 3,576,155	
(2) 固 定 資 産		
ア.基本財産	¥ 9,982,195	
イ.その他の固定資産	¥ 5,165,523	
(3) 繰 延 資 産	¥ 44,800	
II 負 債 の 部		¥ 4,948,346
(1) 流 動 負 債	¥ 1,113,690	
(2) 固 定 負 債	¥ 3,834,656	
III 差 引 純 資 産		¥ 13,820,327

# 監 査 報 告 書

平成20年5月14日

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会  
理事長 牧 野 洋 一 殿

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会  
監 事 荒 卷 操  
監 事 鈴 木 道 生

私たち監事は、平成19年4月1日から平成20年3月31日までの平成19年度の事業年度に関して、理事の業務執行の状況及び社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会の財産の状況について監査をいたしました。その結果につき以下のとおり報告します。

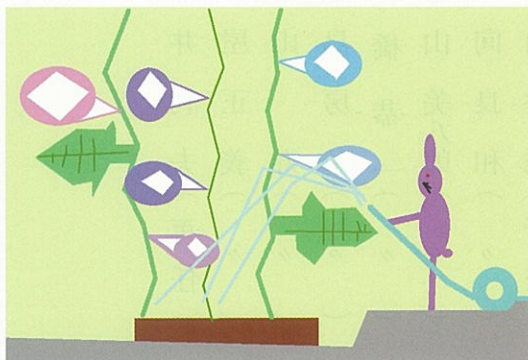
## 1 監査の方法の概要

監事は、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決済書類等を閲覧し、各施設における業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類及び事業報告書につき検討いたしました。

## 2 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書及び財産目録の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書及び財産目録は、法令及び定款に従い法人の財産、事業活動及び資金収支の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業活動報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を示しているものと認めます。
- (4) 理事の職務遂行に関する不整の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上



カット 須藤 玲子

※「同援だよりに名簿掲載希望欄」へ〇印をご記入頂いた方のみ掲載しております。

◇高島昭子◇深井葉子◇村山苑職員  
一同他二件◇東京都同胞援護会後援  
会 会長川鍋 實◇木村美子◇マツダ  
ドライサービス他二件

平成二十年一月一日  
平成二十年六月十二日

ご支援ありがとうございます  
(敬称略順不同)

## 新 役 員、評 議 員 決 定

任期满了に伴う新役員、評議員の選出は、平成20年5月28日(水)の  
理事会・評議員会においてそれぞれ審議され、下記のとおり選出された。

### 理事・評議員名簿

#### 【理事・監事】

理 事 長	牧 野 洋 一 (再任)
常 務 理 事	菅 原 眞 廣 (新任)
理 事	多 久 島 耕 治 (再任)
〃	橋 本 泰 子 (新任)
〃	原 山 陽 一 (再任)
〃	志 茂 威 (新任)
〃	品 川 卓 正 (再任)
〃	田 中 紀 久 子 (〃)
〃	殿 塚 典 彦 (〃)
監 事	鈴 木 道 生 (再任)
〃	五十嵐 力 平 (新任)
	以上 二名
	以上 九名

#### 【評議員】

評 議 員	坂 井 利 夫 (再任)
〃	古 屋 正 義 (〃)
〃	小 山 寿 (〃)
〃	榎 島 房 子 (〃)
〃	高 橋 恭 一 (〃)
〃	本 山 美 八 郎 (〃)
〃	川 向 良 和 (〃)
〃	飯 山 幸 雄 (新任)
〃	堀 茂 (〃)
〃	岡 橋 生 幸 (再任)
〃	戸 塚 洋 子 (〃)
〃	木 村 美 子 (新任)
〃	六 本 木 尚 (再任)
〃	相 原 幸 仁 (〃)
〃	南 山 徳 英 (新任)
〃	水 谷 貞 子 (〃)
評 議 員 (兼)	菅 原 眞 廣 (新任)
〃	牧 野 洋 一 (再任)
	以上 十八名

# 二〇〇九新卒採用について

総務部長 佐々木末廣

## 〔1〕厳しさが続く中で

依然として、福祉サービス分野における人材採用には厳しい状況が続いておりますが、本法人におきましては二〇〇九年三月の新規卒業者の採用に向けて様々な広報・採用活動を行っているところです。各大学、短大、専門学校への周知については、昨年同様に事務局及び各施設に連絡をいただいたすべての大学、短大、専門学校へ求人票を発送しました。

## 〔2〕多様な就職説明会を活用

また、外部で行われる合同就職説明会に数次にわたり参加し、同援の歴史と伝統に裏付けられた確かな福祉の実践を説明し、熱心な学生たちの関心を得てきております。このような合同就職説明会は、五月から始まり場所は大学や公共施設などで行われる場合が多くなっております。

さらに今年には東京都福祉人材センター主催の福祉の就活応援キャン

ペーン08「福祉の仕事 就職フォーラム」にも参加できることが決定したところですが、

## 〔3〕独自の説明会では職員自身の生の声も

本法人独自の本部説明会としては、九月末に本部で開催予定ですが、その際には、各施設の状況を視覚で捉えていただけるデジタルビデオで最新の施設の情報を伝えて参ります。また、昨年は「活躍する職員」として、福祉の先達としての施設長や母親となった職員の活躍を職員自身の生の声で学生たちに語りかけて来ました。もちろん活発な質疑の中で、同援で働いたらどんなことが可能となるのかを分かりやすくお答えしております。

## 〔4〕ホームページ・リニューアルの効果

また、インターネットを活用することも欠かせません。昨年、ホームページのリニューアルを実施し、分か

りやすく印象的な採用専用ページを設置しました。ここで様々な効果が表れました。新卒採用についてもホームページを見て応募と言う方が増えてきました。

このような様々な取り組みの結果として、昨年は、関東圏以外の学生を含め五十名ほどの学生に説明会に参加していただきました。学生の多くは、職員の実践的な研究発表会である「福祉サービス研究発表会」など特色ある福祉の実践を指した同援のあり方に関心を持つたようです。

## 〔5〕一人ひとりの能力開発が今後の課題

採用された新規採用職員は同援の未来を担う人材として、一人ひとりの能力開発が今後の課題となり

の能力開発が今後の課題となります。本法人では、職員研修計画を二か年間にわたり定め、新任研修から始まる階層別研修や、今日の福祉サービスにとつての重要課題であるリスクマネジメントや利用者視点によるケアマネジメントや利用者視点による能力開発を加速させる態勢を整えています。

また、高齢者や障がい者・保育児童女性支援系などの福祉サービスグループが研修プログラムを組み、個性の高い福祉サービスに即した能力向上を目指しております。

今後も、一人ひとりの個人としての職員が、豊かな感性とやさしさを起点とした福祉サービスを自ら発想し、行動できるように人材育成に更に力を入れて参ります。

### 2009新卒採用プロセス

#### 同援ホームページで募集

#### インターネット

##### 教育機関への周知

各大学、短大、専門学校への周知

##### 合同就職説明会参加

大学、公共施設での説明会  
08「福祉の仕事 就職フォーラム」

#### 本法人の説明会

本部事務局で説明会 平成20年9月25日

#### 採用試験

資 格 取 得 の 紹 介

左記の方が資格取得しました。  
日頃の業務に生かして活躍を期待  
します。

【社会福祉士】

原町ホーム

介護員 野元 網  
看護師 三村 寛子  
相談員 田代 秀之

サンライズ万世

書記兼指導員 渡邊 朝紀

新宿区原町ホーム

地域包括支援センター  
相談員 大塚 隆寛

【精神保健福祉士】

さやま園

生活支援員 岩見 祐亮

【介護福祉士】

原町ホーム

介護員 眞弓 勉  
介護員 竹内 信彦

さやま園

生活支援員 渡邊 恵子

【介護支援専門員】

フジホーム

介護員 浅見 友博

原町ホーム

介護員 長谷川富子

原町高齢者在宅サービスセンター

介護員 後藤 道子

祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方が  
受賞・授与されました。  
おめでとうございます。

◎多摩立川保健所集団給食施設協議会  
給食従事者優良従業員表彰

昭島病院

栄養士 井上享子



同援各施設では左記の予定でバザー  
を開催致します。品物のご寄附ご協力  
等よろしくお願い致します。

○サンライズ青山バザー

七月十二日(土)午前十時～

○こもねフェスタ

七月二十六日(土)午前十一時～

○つつじが丘保育園

わいわいバザール  
十月十一日(土)午前十時～

○昭和郷フェスティバル

十月十九日(日)午前十時～

○地域交流バザール ゆたか苑

十月十九日(日)午前十時～

○サンライズ武蔵野

むさしの保育園合同バザー  
十月二十五日(土)午後十二時～

○みなと保育園バザー

十月二十五日(土)午後十二時～

○さやま園祭

(サンホーム・ひかり苑合同)  
十月二十六日(日)午前十時～

○同援みどり保育園

グリーンバザール  
十一月八日(土)午後十二時～

○こもねまつり

十一月八日(土)午前十二時～

○同援さくら保育園バザー

十一月八日(土)午後十二時～

○サンライズ山中

大山保育園合同バザー  
十一月八日(土)午後十二時～

○さくらんぼ祭

十一月二十二日(土)午後十二時～

○サンライズ世田谷バザー

十一月十五日(土)午前十二時～



先日近所のペットショップに行つたと  
き、家族の強請りと衝動で犬を飼いま  
した。「癒し」のブームなのでしょう  
か？アニマルセラピーという言葉  
を聞いた事があります。セラピー  
について医学的・科学的に実証  
していくのは困難とも聞かれます。

「動物の存在が私達の心身によい影

響を与えるらしい。」ということ  
は誰もが経験を通してなんとなく知  
っていることでしょう。私自身興  
味があるので、「アニマルセラピー」  
でホームページを検索しました。す  
ると効果について「生理的・身体  
的效果」「社会的改善」「精神的  
作用」等、様々な内容が記載され  
ていました。

読むにしがたが「色々な効果がある  
ものだ。」と感心しておりましたが、  
ふと振り返るとそこには我が家の  
「わんこ」が…

家族全員が大騒ぎでしたが、私は思  
わず苦笑い。微笑ましさもありま  
した。これも一つの効果でしょうか？

これから十数年共に暮らす中、どの  
様な事があるのか？セラピーのペ  
ージに書かれているような効果があ  
るのか？楽しみでありませんが、反  
面生ある存在の重さを再認識して  
おります。(池田 記)

―表紙の写真―

「浜松市にて」

(高木道信 氏)

平成二十年七月三十一日 発行  
東京都新宿区原町三の八  
電 話 〇三(三三四一)七六一  
社会福祉法人 東京都同胞援護会  
発行者 牧野洋一  
印刷所 東京都同胞援護会事業局  
東京都千代田区外神田一―一五